

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名 称	腎移植患者におけるエベロリムス使用が鉄代謝に与える影響の検討
氏 名	米本 佐代子
所属機関	兵庫県立西宮病院 腎疾患総合医療センター
<p>腎移植患者における貧血は生命予後・腎予後に関わる重要な因子であるが、中でも免疫抑制剤による貧血は腎移植特有の病態である。2011 年末に「腎移植における拒絶反応の抑制」の効能追加承認された mTOR 阻害薬エベロリムス (EVR) は、その効能から今後使用頻度の増加が予測される薬剤である。これまで mTOR 阻害剤の鉄代謝への影響の報告はいくつか存在するも、その機序に関してはいまだ不明である。今回我々は、EVR 使用が鉄代謝に与える機序を明らかにするために、従来の鉄代謝マーカー、炎症マーカーに加えヘプシジンの測定を行い、EVR のヘプシジンへの直接的作用の存在の可能性を検討した。</p> <p>解析対象者は計 95 例 (エベロリムス投与群 (EVR 群) 53 例、非投与群 (非 EVR 群) 42 例) であった。2 群間で有意差を認めたのは、移植後年数、MCV、MCH、RDW のみであり、TSAT、フェリチンは EVR 群で低値傾向ではあるものの統計学的有意差は認めなかった。しかし、TSAT、フェリチンをアウトカムとした重回帰分析では EVR 投与の有無は TSAT、フェリチン低値の有意な因子であり、各々のモデルにヘプシジンを投入すると coefficient が各々15%以上縮小したことから、ヘプシジンが中間変数として働いていると考えられた。</p> <p>今回の結果より、EVR 投与による鉄欠乏の一部はヘプシジンを介した可能性があるものの、直接的作用とは言い切れず、今後機序に関してさらなる研究が必要である。</p>	